

子どもたち一人一人の豊かな心を育む 道徳教育の充実を目指して

誰一人取り残すことのない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現の基盤となるのは、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための道徳性です。本県においては、東日本大震災津波からの復興・発展を担い、岩手や社会全体をよりよい方向に変えていこうとする子どもたちの豊かな心を育む道徳教育の充実が一層求められています。

そのためには、各学校の着実な取組が必要です。本リーフレットは、令和7年度道徳教育研究指定校である八幡平市立安代中学校の貴重な研究実践を紹介しています。道徳科を要とした学校教育活動全体を通じて推進する道徳教育の充実に向けた取組の参考として、ぜひ御活用ください。

【八幡平市立安代中学校 研究構想図】

【学校教育目標】

平和を愛し、真・善・美・体の心身の調和的発達を志向し、かしこく、正しく、たくましく、情操豊かな、ねばり強い、誠実な人間の育成

【生徒の実態】

- ・明るく素直である。
- ・学習に対してまじめに取り組む。
- ・仲間と協力して作業に取り組む。
- ・粘り強く物事に取り組む姿勢に課題がある。
- ・困難な課題と向き合うことが苦手な生徒もいる。

【今日的課題】

- ・多様化する時代を生き抜く力を付ける必要がある。
- ・他者と協働し、よりよく生き抜くための資質・能力を養う必要がある。

【目指す生徒の姿】

- ・自分が自分らしく生きている生徒
- ・他者や自分の命を大切にする生徒
- ・困難なことにも前向きに取り組んでいく生徒

研究主題

自己の生き方について考え、
未来をたくましく生きる生徒の育成
～小中連携による授業づくりを通して～

研究内容 1

D「生命の尊さ」についての道徳教育に関する効果的なカリキュラム・マネジメント

- (1) 道徳教育全体計画及び全体計画の別葉の見直し
- (2) 道徳科の年間指導計画と学校行事、地域人材活用の関連についての検討

研究内容 2

当事者として学びがいのある道徳授業を目指した授業改善

- (1) 道徳授業構想シートの活用による授業設計の工夫
- (2) 道徳科における「当事者意識を高める」授業づくりの工夫

<授業改善の視点>

- ・「考え、議論する道徳」の実践
- ・「問い」をつなぐ学び
- ・「選択」と「自己決定」のある学び
- ・自己の生き方について考えを深める学び

研究内容 3

外部講師の派遣による研修会や
先進校視察研修等の教員研修の充実

小中連携

八幡平市立安代中学校 研究主題

自己の生き方について考え、未来をたくましく生きる生徒の育成

八幡平市立安代中学校では、周りへの感謝を忘れず、どのような状況でも前に踏み出し、自分の考えをしっかりともち、相手の立場に立って判断し、多様な考え方に気付き、よりよい生き方を模索し続ける「自己の生き方について考え、未来をたくましく生きる生徒」を育成しています。

～小中連携による授業づくりを通して～

重点内容項目「D 生命の尊さ」

1. 道徳教育に関する効果的なカリキュラム・マネジメント

(1) 道徳教育の全体計画及び別業の見直し

重点内容項目「生命尊重」と各教科での学習内容の関連を整理するにあたり、全教科担任が生命尊重に関わる全教材を改めて読み、担当教科との関連性を洗い出す作業を行った。

これをもとに、道徳科と各教科を組み合わせた年間指導計画や単元の指導計画の見直しに取り組んだ。

2年	道徳教材名	道徳との関連する単元・題材名(学習する時期も)
国語		
数学		
社会	最後のパートナー	3年生の7月の第2部1章第2節基本的人権の尊重の単元と関連がある。
英語		
理科	命を見つめて	11月の生物のからだのつくりとはたらきに関連がある。
保健体育	命を見つめて - 猿渡瞳さんの六百四十六日 -	11月の保健分野の生活習慣病の予防に関連がある。
家庭科	父の決意	9月の「安全な住まいで安全な暮らし」の題材との関連がある。
技術		
音楽		

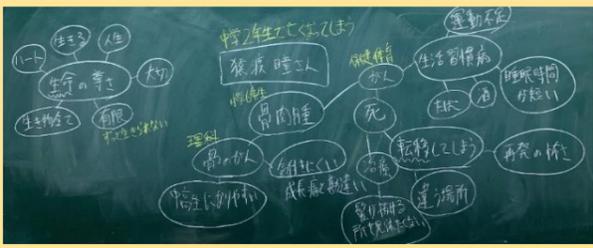
11月の理科
第4章「刺激と反応」の単元2「3. 骨と筋肉のはたらき」の授業で、「骨はからだを支えると同時に、内臓や脳などを保護するはたらきをもっていること」「骨は関節とつながり、けんがまたいで骨につくこと」を学習する。

11月の保健体育
「健康な生活と疾病の予防」の単元「3. がんの予防」の授業で、「骨にもがんがあること」「年齢が低い方ががん細胞の転移スピードが早いこと」をする学習する。

【教師の感想】
道徳科の教材をじっくり読むことで、担当教科の学習内容と道徳的価値とのつながりを実感でき、指導に広がりをもたせることができた。道徳的な価値理解について深く考えさせることにつながったと感じた。

教材名 命を見つめて - 猿渡瞳さんの六百四十六日 -

各教科において道徳科との関連を意識した授業を行ったため、本時の導入において教科で学習したことを基にした発言が多く見られた。より深い価値理解につながった。



2. 当事者として学びがいのある道徳授業を目指した授業改善

(1) 道徳授業構想シートの活用による授業設計

令和7年度盛岡教育事務所の授業カブラッシュアップ事業授業改善研修会(道徳)のメンバーで考案したものを活用した。生徒の姿を想像しながら授業を構想することができるもので、互見授業の際、本構想シートをもとに授業づくりを実施した。

生徒の実態
生徒の実態を踏まえた本時のねらいとする道徳性を構成する諸様相を設定する。

価値の捉えについて
本時に関わる内容項目に関する3つの価値の捉え(人間理解、他者理解、価値理解)について記入する。

展開案
教材との出会いの設定等の導入、色分けにしてある3つの価値について触れる場面をどこで設定するかを明記する。(黄色、黄緑、ピンクで記載)

(2) 道徳科における「当事者意識を高める」授業づくりの工夫

道徳科の授業において、生徒自身が「当事者意識」をもって授業に参加できるよう授業づくりを工夫した。研修会の講義等から学んだ、道徳的価値の理解について教員間で共有し、授業構想シートに明記した。また、価値理解に向かうための発問の工夫を行った。

道徳的価値の理解の充実	○「価値理解」「人間理解」「他者理解」を促す授業づくりの工夫 →授業構想の際に発問づくりの視点として活用 ○「他者理解から価値理解に向かう際のつなぎの発問の工夫 →自分事として捉えるつなぎの発問の位置付け	
道徳ノートの記事	<p>脳死している大切な人は特に手放せないし、手放したくない。もし今大切な人が脳死してしまったら、私は、臓器提供に反対する。その人の心臓がとまるまでずっとそばにいたいと思った。</p>	
自我関与の工夫	○発問を精選し、ネームプレート等による自分の立場を明確にした話し合いの工夫 →立場を明確にした話し合いで、自分事となり、物事を多面的・多角的に捉えることにつながった	

(2) 学校行事や地域人材活用を活かした複数時間の関連を図った指導の工夫

情報モラルの取組を活かし、特別活動と道徳科の関連を図った複数時間での指導を工夫した。

① サイバーセキュリティモデル校指定	② スマホDE防災リテラシー	③ 情報モラル講座

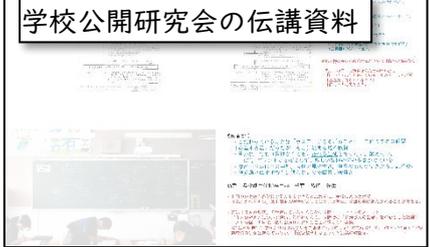
問い 「自他の生命を大切にすることはどういうことだろう。」

1時間目【道徳科】 「最後のパートナー」	2時間目【特別活動】 情報モラル講座	3時間目【特別活動】 体験活動「大炎笑」	4時間目【道徳科】 「君、想像したことある？」
引退した盲導犬を引き取るボランティアをしている方の教材で学習した。	スマートフォンの使用方法等に関して相手意識をもった使い方について協議した。	SNSのトラブルをカードゲームで疑似体験し、ネット上での相手意識について考えた。	誹謗中傷に関わる教材で、SNS等も含めた、生命を大切にすることについて考えた。

4時間を通して「自他の生命を大切にすることは」という問いを軸に道徳科と特別活動を関連づけたことで、抽象的だった生徒の考えが、具体的に多面的に深まったものになった。実話教材・SNS体験型学習の活用により、生命の尊さや情報モラルの実感を伴った理解につながった。

3. 教員研修の充実について

県道徳教育推進事業の指定校として実施した研修会、県教育委員会主催の研修会に積極的に参加するなど研修の充実を図った。また、近隣の学校公開研究会や各種研修会等に参加した教員が、学びを職員と共有するために伝講する場を校内研修に位置付け、校内全体の学びとする工夫を行った。

	県道徳教育推進事業に係る研修会等	県教育委員会主催の道徳教育研修会等への参加	その他教員研修等
実施した研修	<ul style="list-style-type: none"> 中央講師による講義、師範授業  <p style="text-align: center;">師範授業の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業づくり研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開研究会への参加 指導主事招聘の校内研の実施 研究団体の講習会への参加 校内研等による研修内容の伝達 
	 <p style="text-align: center;">講義の様子</p>	<p>今回は実際に授業を考え、発表し合う内容で、とても実践的なもので、大変参考になった。</p>	<p>学校公開研究会の伝講資料</p> 
<p>安代小学校・田山小学校、平館高校の教員も参加し、小・中・高の連携につながる研修会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳教育指導者養成研修 (主催：教職員支援機構) 先進校視察 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育パワーアップ協議会 	<p>校内研等での伝講をすることで、研修会に参加するだけでなく、自身の振り返りにつながり理解がより深いものになった。</p>	

研究の成果と課題

- 道徳の全体計画および別葉の見直しを通じて、道徳科と他教科・領域との連携を強化することにつながった。特に「生命の尊さ」を重点内容項目とし、教科等との関連を意識した教材選定と授業づくりを行うことで、生徒の学びがより実生活に根ざしたものとなった。
- 道徳授業構想シートを活用した授業設計や、「問い」をつなぐ学び、「選択」と「自己決定」のある学びなど、当事者意識を高める授業づくりに取り組んだことで、生徒が自らの意見を表現し、自己の生き方について主体的に考える姿が見られた。
- 地域等との連携や、学校行事や特別活動と道徳科を一体化したユニット型授業が実現し、児童生徒の主体的な学びを促進した。
- 「考え、議論する道徳」の実践において、より学びを深めるため、生徒の実態や発達段階に応じた問いの設定と、それを活かす授業展開を工夫すること。
- 一定の成果を上げている教科での学びや学校行事、地域人材を活用した学校教育全体で行う道徳教育の取組を、持続可能なものにするため、教科等との連携を推進する校内体制を整備し、教員間の共通理解を図ること。